

Sharperlight
Simplified Intelligence



Sharperlight 5.2

インストールガイド

www.sharperlight.com

info@sharperlight.com

Sharperlight5.2 インストールガイド

Copyright 2008-2021 Philight Software International Pty Ltd

印刷日：2021年12月

ドキュメントバージョン：1.00.00JP

発行元：Philight Software International Pty Ltd

原本：Sharperlight 5.0 Install Guide v2_4

すべての著作権および商標は所有者に帰属します

免責事項：このドキュメントの情報は、Philight Software International Pty Ltd の現在の見解であり、予告なしに変更される場合があります。このドキュメント上の文章及びその内容に関し如何なる保証もするものではありません。万一、このドキュメント上の文章の内容に誤りがあった場合でも当社は一切の責任を負いません。本製品の使用もしくは使用不能により生じた損害に対して一切の責任を負いません。

全著作権所有。

このドキュメントおよびここに記載され、ここに提供されるコンピュータソフトウェアの著作権は、Philight Software International Pty Ltd の所有物です。この出版物またはコンピュータソフトウェアのいかなる部分も、複製、送信、転写、検索システムへの保存、あるいは人間の言葉やコンピュータ言語への置換は、形式、手段を問わず Philight Software International Pty Ltd の書面による明示的な許可なしに使用することはできません。

Philight Software International Pty Ltd

15 Ohio Place

Marangaroo

WA 6065

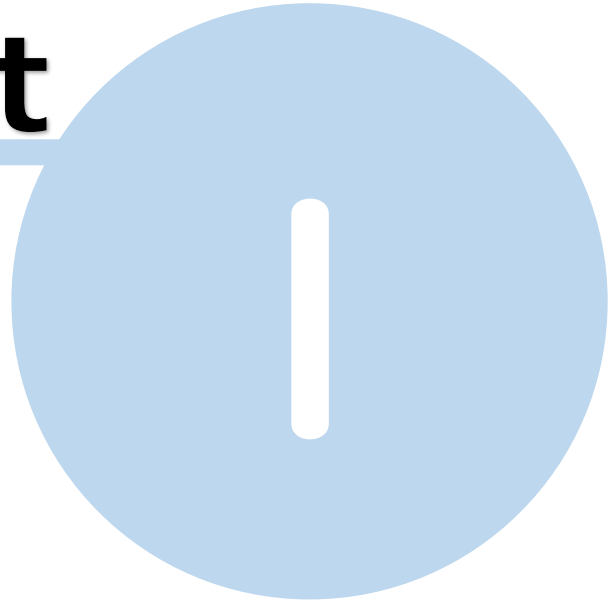
AUSTRALIA

Table of Contents

1	序章	2
1.1	さあ、はじめましょう.....	2
1.2	前提条件.....	3
2	準備	5
2.1	システムデータベース.....	5
2.2	SQL Server 認証	7
2.3	Sharperlight サービス	8
2.4	サポートされているソフトウェア	9
2.5	ハードウェアのスペック.....	10
2.6	コマンドライン	11
3	インストール.....	14
3.1	チェック項目	14
3.2	手順.....	15
3.2.1	手順 1 - 前提条件.....	15
3.2.2	手順 2 - 手動でのアンインストール.....	16
3.2.3	手順 3 - セットアップウィザード	17
3.2.4	手順 4 - ライセンス規約への同意.....	17
3.2.5	手順 5 - セットアップタイプ.....	18
3.2.5.1	手順 5a - Client Only	19
3.2.5.2	手順 5b - Custom.....	19
3.2.5.3	手順 5c - Complete	20
3.2.6	手順 6 - インストールと認証	21
3.2.7	手順 7 - セットアップ完了	22
3.2.8	手順 8 - インストールの後.....	22

3.2.8.1	手順 8a - クライアント.....	22
3.2.8.2	手順 8b - サーバー	24
3.2.9	手順 9 - テスト	27
4	構成	30
4.1	ライセンスのインポート.....	30
5	トラブル対応.....	33
5.1	Excel アドインの再登録.....	33
5.2	Sharperlight サービスの時間切れ.....	33

Part



1 序章

Sharperlight に関心をお寄せいただきありがとうございます。このドキュメントでは、Sharperlight を Windows デスクトップコンピューターまたはアプリケーションサーバーに展開するためのインストール手順について説明します。Sharperlight をあまりご存知ではないユーザーの皆さま、Sharperlight は、複数のアプリケーションシステムに同時にシームレスにアクセスできるセルフサービスの分析およびレポートフレームワークです。ユーザーは、Microsoft Excel® にリンクしたり、Web ブラウザーに公開可能な Web クエリを作成するために使用する、単純なクエリインターフェイスの恩恵を受けます。Sharperlight は、データモデルと呼ばれるデータ抽象化レイヤーを使用して、データソースとユーザーとの簡単で高度に安全なコミュニケーションを実現します。

1.1 さあ、はじめましょう

Sharperlight ソフトウェアは、独自のデータアクセス層を使用してデータソースに安全に接続できるアプリケーションサーバーに、インストールされるよう設計されています。情報の利用者は、アプリケーションサーバーでホストされている Sharperlight Web サービスにログインし、Web ブラウザーを介しレポートとダッシュボードを開くことができます。Web クエリは、Sharperlight サービスにリモート接続可能なリッチデスクトップクライアントで作成されます。同じデスクトップクライアントを Microsoft Excel にシームレスに統合することも可能です。

通常、Sharperlight 実装は、Web クエリまたは Sharperlight XL アドインの使用を管理するユーザー向けに、アプリケーションサーバーへのサーバーインストールと、末端コンピューターへのクライアントインストールで構成されます。Web ブラウザーを介し Web サービスにアクセスするユーザーは、クライアントのインストールは必要ありません。サーバーコンポーネントとクライアントコンポーネントは 1 つのインストーラーファイルにまとめてパッケージングされていますが、用途に応じてそれらの機能をインストール時に、有効または無効にすることが可能です。

Sharperlight をインストールする場合、それが真新しいサイトである場合は、クライアントコンピューターに Sharperlight をインストールする前に、アプリケーションサーバーにインストールを行い、適切な設定をする必要があります。既存のサイトを新しいバージョン

の Sharperlight に更新する場合は、サーバー上の Sharperlight を更新してからクライアントコンピュータの Sharperlight を更新します。

データモデルインストーラーを使用したデータモデルの準備とクライアントセットアップでのデータソースへのローカル接続の設定は、Sharperlight サービスをホストするアプリケーションサーバーでのみ実行する必要があります。Sharperlight デスクトップクライアントにアクセスする末端ユーザーは、クライアントセットアップでリモート接続を使用する必要があります。これにより、より速いクエリの作成やより安定したネットワーク接続の実現、さらには更新が容易になります。

1.2 前提条件

Sharperlight 5.2 のリリースは、Microsoft .NET Framework 4.6.1 で開発され、Microsoft .NET Framework 4.6.1 に依存しています。つまり、Sharperlight 5.2 のオペレーティングシステムの最小要件は、Service Pack 1 を搭載した Windows 7 と Windows Server 2008 R2 です。他のオペレーティングシステムは、Sharperlight Web サービスによって公開された Web コンテンツにアクセスして利用できます。これは、Web レポート、チャート、およびダッシュボードをほとんどの Web ブラウザーで表示できるためです（追加のプラグインは必要ありません）。

Sharperlight には、ライセンスとユーザー設定を格納するデータベースをホストするための Microsoft SQL Server® のインスタンスが必要です。Microsoft SQL Express は、Microsoft SQL Server のライセンス版をインストールするための無料の代替手段です。

Sharperlight Excel アドインは、Microsoft Excel 2007、2010、2013、2016、2019、および Office 365 のローカルオフラインインストールと互換性があります。アドインは、インストールプロセス中に Microsoft Excel に自動的に登録されます。

Part

2

2 準備

端末コンピューターへの Sharperlight のインストールは比較的簡単です。インストール後、クライアントセットアップのリモート接続のみを設定し、接続をテストを行うだけです。Sharperlight をアプリケーションサーバーにインストールするには、ネットワークアカウントとデータベースアカウントを確認し、システムデータベースを作成するため、いくつかの準備が必要です。

2.1 システムデータベース

Sharperlight のアーキテクチャの中心は、ライセンス、ユーザーの詳細、セキュリティ設定、および Web クエリを保存するシステムデータベースの存在です。ひとつのサイトでは、すべての端末コンピューターが、直接ローカル接続、リモート接続を使用してまたは Sharperlight Web サービスを介して同じシステムデータベースにアクセスする必要があります。

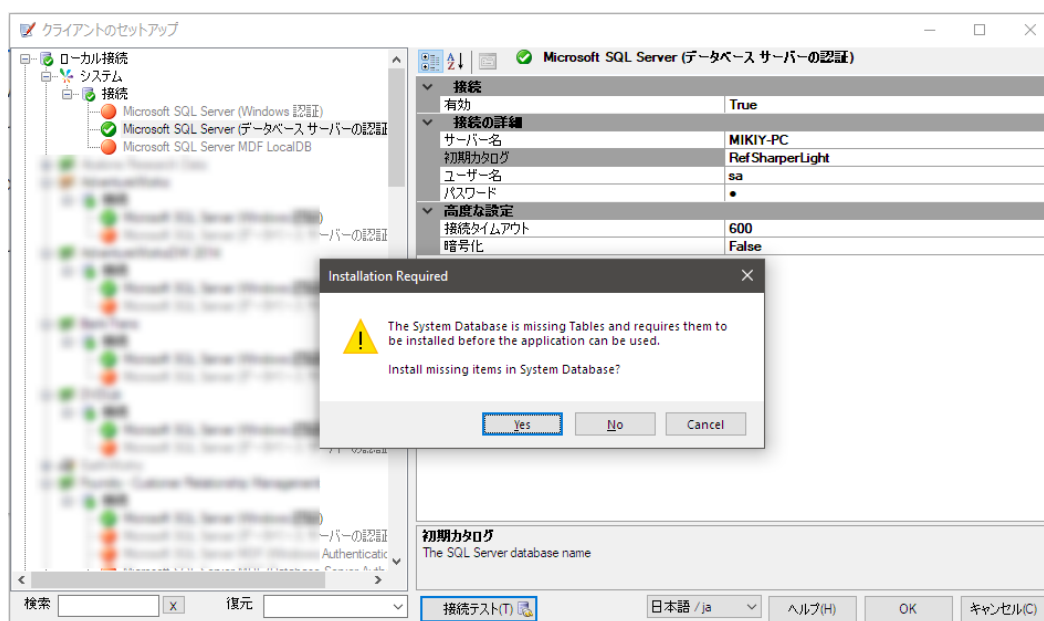
システムデータベースは、Microsoft SQL Server 2008R2 以降で作成する必要があります。無料の SQL Server Express は、SQL Server がまだ存在せず、顧客が SQL Server ライセンスを購入したくない環境で使用できます。

ほとんどの場合、システムデータベースには任意の名前と照合順序を使用できます。一般的には、[Sharperlight] という名前をデータベースに与え、既定の照合順序を使用します。ただし、システムデータベースが他の SQL Server データベースをクエリするための一時テーブルスペースとして使用される場合があり、照合順序はこれらの他のデータベースと一致する必要がある場合があります。疑わしい場合は、ソフトウェアの再販業者またはデータモデルの作成者にセットアップ要件を確認してください。

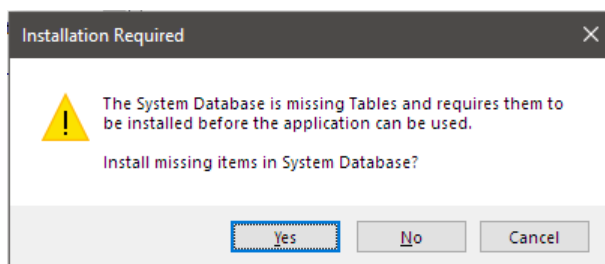
Microsoft SQL Server Management Studio を使用して、システムデータベースを作成できます。

システムデータベースの空枠が作成されたなら、Sharperlight [クライアントのセットアップ] を起動し、システムの接続情報を設定しテストボタンで接続の検証をします。

システムデータベースが空の場合、注意メッセージが表示され、不足しているテーブルをインストールするようにユーザーに促します。[はい]ボタンを選択すると、システムテーブルを作成するインストールスクリプトが実行されます。



新しいデータベース - システムデータベース



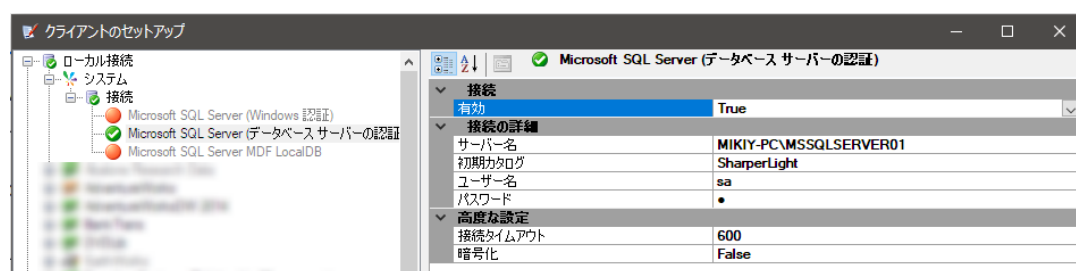
新しいデータベース - システムデータベース - 注意メッセージ

和訳 システムデータベースにテーブルがないため、アプリケーションを使用する前にテーブルをインストールする必要があります。
システムデータベースに不足しているアイテムをインストールしますか？

システムデータベースには数個のテーブルしかなく、20メガバイトを超えることはめったにありません。ただし、それでも定期的にバックアップする必要があり、別のアプリケーションのデータベースにシステムテーブルをインストールすることは好ましくありません。システムテーブルをシステムデータベース内に作成することで、リカバリ等の保守が容易になります。システムデータベースに対しては、完全な権限が必要です。

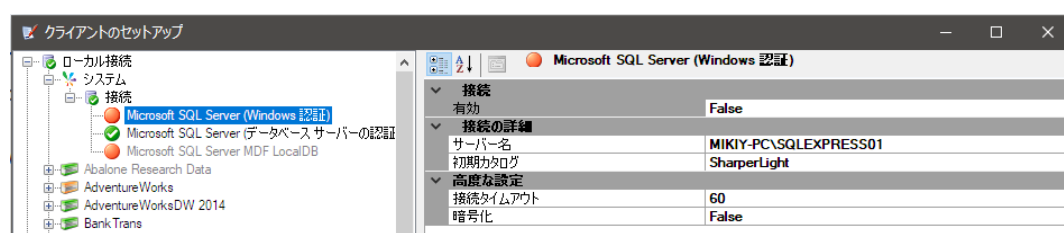
2.2 SQL SERVER 認証

Microsoft SQL サーバーでは、Windows およびデータベースサーバー認証を使用したデータベースアクセスが可能です。 後者は SQL サーバーのインストール中に無効にすることができるため、ユーザーは Windows 認証を使用するように強制される可能性があります。 Sharperlight では、[クライアントのセットアップ]の SQL サーバー接続においてのローカル接続でデータベースサーバー認証を使用することをお勧めします。 これにより、ソースデータベースへのユーザーアクセスの管理が簡素化され、接続の問題のデバッグが容易になります。



データベースサーバー認証

残念ながら、SQL サーバーの一部のインストールでは、データベースサーバー認証が無効になっているため、またはより厳格なセキュリティ要件があるため、データベースサーバー認証が常に利用できるとは限りません。 Windows 認証を使用してデータベースアクセスを実現する必要がある場合でも、それは比較的簡単に行うことができます。 しかしながら管理者が考慮する必要がある課題がいくつかあります。 SQL サーバーデータベースへの Windows 認証アクセスを実装するには、Windows ユーザーあるいはそれらがメンバーである Windows グループを、ソースデータベースに対しアクセス権限を持つ SQLServer ログインとして追加する必要があります。



WINDOWS 認証

ユーザーが Windows 認証されたローカル接続を使用してコンピューターにログインし、クエリビルダを開こうとした場合、SQL サーバーは Windows 認証を使用してデータベースアクセスを検証します。 ユーザーは、Windows 認証によって Sharperlight へのアクセス

を許可されますが、その Windows ユーザーが、SQL サーバーでのクエリ権限を持たない場合は、SQL クエリの実行が制限されるので注意が必要です。

ユーザーは通常、SQL サーバーデータベースへのローカル接続に直接アクセスすることはありません。Sharperlight データサービスをホストするサーバーへのリモート接続を使用する必要があります。リモート接続では、Sharperlight サービスを開始したログオンアカウントを使用して、サーバー上で Windows 認証が完了します。既定では Windows サービスは、ローカルシステムアカウントを使用します。

このタイプのアカウントが SQL サーバーデータベースにアクセスできる可能性はほとんどありません。Sharperlight サービスを設定する時のポイントは、Sharperlight サービスを実行するユーザーアカウントが、SQL サーバーへの必要なアクセス権限があるユーザーアカウントを割り当てる必要があるということです。

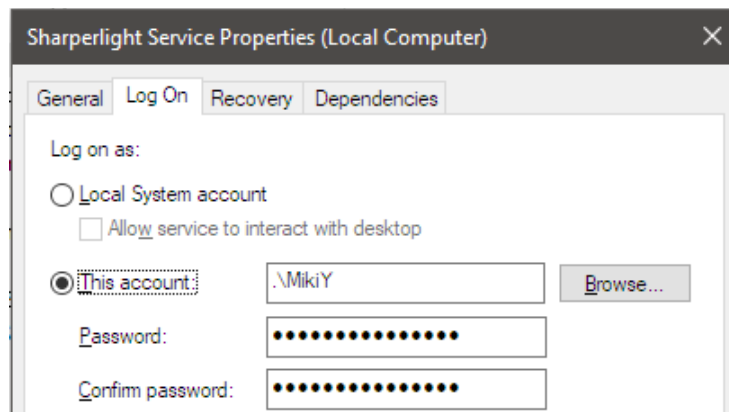
2.3 SHARPERLIGHT サービス

Sharperlightサービスは、RESTful Webサービスとリモートデスクトップクライアント用のゲートウェイAPIを組み合わせて、データモデル、Webクエリにアクセスし、マテリアライズドクエリ、レポート行、カスタムテーブルなどの一元化された機能を使用する自己完結型のWebサービスです。サーバー機能がインストールされている場合、Sharperlight bin ディレクトリには、md.Service.exeとmd.WS.Service.exeの2つの実行可能ファイルが存在します。md.Serviceは一般に手動サービスと呼ばれ、Sharperlightの[スタート]メニューフォルダーにこのアプリケーションを実行するためのショートカットがあります。

md.WS.Serviceは、Sharperlightサービスと呼ばれるWindowsサービスとして構成されます。手動サービスは、テストおよび開発目的のため使用され、Sharperlightサービスは、実稼働環境向けです。

Sharperlightを新しいアプリケーションサーバーに実装する場合、実装者は最初に手動サービスを使用して接続の詳細とリモートアクセスをテストする必要があります。構成が正常に機能していることを確認したら、Windowsサービス下にSharperlightサービスをセットアップします。Sharperlightサービスエントリは、インストーラがエントリを作成するため、サービスエントリのリストにすでに存在します。

Sharperlightサービスを構成するには、スタートアップの種類を自動的に設定し、サービスにログオンするためのネットワークアカウントを設定します。ネットワークポリシーとWindows更新により、Sharperlightが機能しなくなる可能性があるため、ローカルシステムアカウントのままにしないでください。



SHARPERLIGHT サービス - ログオン

2.4 サポートされているソフトウェア

Sharperlight を正常にインストールするには、.NET Framework4.6.1 以降がインストールされた Microsoft Windows オペレーティングシステムが必要です。この.NET4.6.1 フレームワークへの依存は、Windows 7 Service Pack1 および Windows Server 2008R2 より前のリリースの Windows に Sharperlight をインストールできないことを意味します。

Sharperlightをインストールするコンピュータにおいて、サーバーとしては、Sharperlight Webサービスをホストすることが唯一の役割であり、端末コンピュータとしては、Microsoft Excel Sharperlightアドインの使用やWebクエリの作成を行うといったクライアントとしての役割が主となります。Sharperlightサービスによって公開されたWebコンテンツへのアクセスには、Sharperlightのインストールは必要ありません。また、使用するWebブラウザーにはプラグインは必要ありません。Webチャネルを介したコンテンツの配信は、ブラウザに依存しないように設計されており、ほとんどのWebブラウザで利用できるはずです。品質保証と一貫性の目的で、Sharperlightソフトウェアは、Microsoft Internet ExplorerとEdge、Google Chrome、Mozilla Firefox、およびApple Safariでテストされています。

Sharperlight が動作するために必要な主な 3 つの要素は、Windows オペレーティングシステム、さまざまな設定とライセンスの詳細を保持する SQL サーバーデータベース、および SharperlightXL アドインを使用する場合のクライアントコンピューター上の Microsoft Excel です。これら 3 つの要素でサポートされているソフトウェアを以下に示します。

アイテム	摘要
オペレーティングシステム	
Microsoft	Windows 7 Service Pack 1, Windows 2008 R2, Windows 8, Windows 8.1, Windows 10, Windows 2012, Windows 2012 R2, Windows Server 2016 and Windows Server 2019
システムデータベースエンジン	
Microsoft	SQL Server 2005, SQL Server 2008, SQL Server 2008 R2, SQL Server 2012, SQL Server 2014, SQL Server 2016, SQL Server 2017 and SQL Server 2019
Microsoft オフィス Excel アドイン	
Microsoft	Office 2007, Office 2010 (32/64 bit), Office 2013 (32/64 bit), Office 2016 (32/64 bit), Office 2019 (32/64 bit) and local off-line install of Office 365

2.5 ハードウェアのスペック

Sharperlight を実装するために必要なハードウェアは、末端ユーザーの数、クエリサービスへの接続方法、およびデータストアのサイズによって異なります。ソースデータベーステーブルに数百万のトランザクションがある小さな 5~10 のユーザーサイトでは、中枢のアプリケーションサーバーが、データベースエンジンと Sharperlight サービスの両方を非常に効率的に実行できます。このアプリケーションサーバーのハードウェアは、8 ギガバイトの RAM を備えたクアッドコアで十分です。このインストールにアクセスするクライアントコンピューターは、クエリ計算の大部分がアプリケーションサーバーで完了するため、大量のリソースを必要としません。クライアントコンピューターは、2 ギガバイトの RAM を搭載したデュアルコアコンピューターと程度でも大丈夫です。しかしながら Sharperlight Excel アドインを使用する場合は、Microsoft Excel のリソース使用が多いため、より高速なプロセッサと 4 ギガバイトの RAM を搭載することをお勧めします。

一般的なガイドラインとして、以下の表は、クライアントサーバー環境に Sharperlight を展開するときに考慮すべき最小の仕様と許容値を推奨しています。これらの推奨事項の基本的な前提は、ストレスのあるコンピューターに Sharperlight をインストールすると応答

時間が標準以下になるため、コンピューターのハードウェアはまだ十分に活用されていないということです。

適用	小	中	大
サーバー			
専用アプリケーションサーバー	×	○	○
CPU と RAM	4 コア / 8Gb	8 コア / 12Gb	16 コア / 24Gb
システムデータベース	10Mb ハードディスク	20Mb ハードディスク	50Mb ハードディスク
クライアント			
Web ブラウザ (表とグラフ)	デュアルコア / 2Gb		
Web ブラウザ (ダッシュページ)	デュアルコア / 2Gb		
Excel アドイン	デュアルコア / 4Gb		

仮想化されたハードウェアと仮想 Sharperlight アプリケーションサーバーの展開により、プロセッサコアの数と使用可能な RAM を拡張できる柔軟な環境が提供されます。ただし、パフォーマンスの問題に対処するために、仮想マシンのリソースを定期的を確認する必要があります。

2.6 コマンドライン

Sharperlight インストーラーは MSI ファイルとしてパッケージ化されており、インストール時に Microsoft Windows インストーラープログラム (msiexec.exe) を使用してインストールを処理します。インストール動作とインストールされた機能を変更できるいくつかのスイッチが利用可能です。コマンドライン構文は、Sharperlight MSI ファイル名から始まり、次に、スイッチを追加してから、“ADDLOCAL”キーワードを追加してインストールする機能を指定します。

```
"Sharperlight 5.2.xxx 64bit.msi" /log install.log /passive ADDLOCAL="XL"
```

```
"Sharperlight 5.2.xxx 64bit.msi" /log install.log /quiet ADDLOCAL="XL,AppShortCut"
```

アイテム	摘要
スイッチ	
/log	すべてのインストーラーアクションをファイルに記録します。ファイル名は、/log キーワードの後ろで指定する必要があります。
/quiet	インストール中にグラフィカルインターフェイスを表示しないようにインストーラーに指示します。

アイテム	摘要
/passive	このオプションは進行状況バーを表示しますが、プロンプトやエラーメッセージは表示しません。
機能	
XL	Excelライブラリをインストールし、Excelアドインを登録します。
Server	サービスランタイムファイルをインストールし、SharperlightサービスのWindowsサービスエントリを追加します。
Developer	スタジオとファウンドリのメニューショートカットを追加します。
SchedShortCut	スケジューラのメニューショートカットを追加します。
ExplorerShortCut	エクスプローラのメニューショートカットを追加します。
SiteSetupShortCut	サイトセットアップのメニューショートカットを追加します。
AppShortCut	アプリケーションメニューのショートカットを追加します。
DMIInstallerShortCut	データモデルのインストーラーのメニューショートカットを追加します。
MQShortCut	マテリアライズクエリのメニューショートカットを追加します。
RRShortCut	レポートの行テンプレートのメニューショートカットを追加します。
StudioShortCut	スタジオのメニューショートカットを追加します。
FoundryShortCut	ファウンドリのメニューショートカットを追加します。
SolutionsShortCut	ソリューションのメニューショートカットを追加します。

Part

3

3 インストール

Sharperlight のインストールを計画するときは、末端ユーザーがクエリコンテンツをどのように扱うかを検討してください。クライアントのインストールが必要になるのは、ユーザーが独自のクエリを作成して維持する場合、またはリッチデスクトップクライアントを使用する場合のみです。

3.1 チェック項目

このチェックリストを用いて、新しいサイトに Sharperlight をインストールする場合の条件や設定を確認することができます。

アイテム	摘要	済
項目 1 : インストール前の条件		
	アプリケーションのインストール用 Microsoft Windows オペレーティングシステム	はい / いいえ
	システムデータベース用 Microsoft SQL サーバー 2008 R2 以降の最新版	はい / いいえ
	Microsoft .NET Framework 4.6.1 以降の最新盤	はい / いいえ
	オプション: Microsoft Office 2007 以降の最新版	はい / いいえ
	オプション: Data Providers not installed with the .NET Framework	はい / いいえ
	データソースへのアクセス権限 (ユーザー名とパスワード)	はい / いいえ
	Sharperlight サービスにログオンするためのネットワークアカウント	はい / いいえ
項目 2 : インストール手順 1 から 7		
	手動で Sharperlight 4.1 以前のバージョンをアンインストール	はい / いいえ
	32bit/64bit MSI インストーラファイルをダウンロード	はい / いいえ
	セットアップウィザードに従う	はい / いいえ
	ライセンス規約に同意する	はい / いいえ
	セットアップタイプと機能を選択する	はい / いいえ
	ユーザーアカウントの認証	はい / いいえ
項目 3 : インストール手順 8a クライアント		
	ローカル接続を無効にする	はい / いいえ
	クライアントのセットアップでリモート接続の設定とテストをする	はい / いいえ
項目 4 : インストール手順 8b サーバー		
	データモデルインストーラーを使用して、必要なデータモデルを設定する	はい / いいえ
	クライアントのセットアップでローカル接続の設定とテストをする	はい / いいえ
	クライアントのセットアップでサービスの設定をする	はい / いいえ
	手動でサービスを起動し、サービスへの接続をチェックする	はい / いいえ
	手動サービスを閉じ、WindowsサービスからSharperlightサービスを開始する	はい / いいえ
	Webチャンネルとリッチクライアントからのサービスへの接続をチェックする (Windowsイベントログでもチェックしてみましょう)	はい / いいえ
	サイトセットアップを起動し、ライセンスファイルをインポートする	はい / いいえ

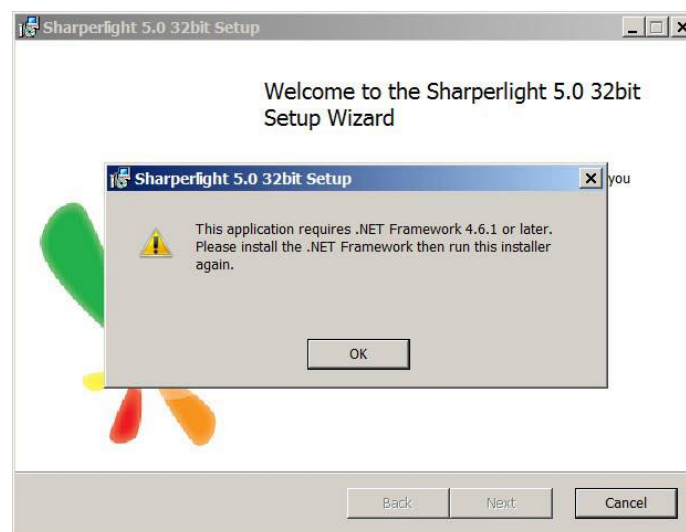
アイテム	摘要	済
	インスタンスを封鎖し、管理者ログインをパスワードで保護し、既定のユーザーログインを無効にする	はい / いいえ
	アプリケーションのログインまたはWindows認証を決定し、ユーザーアカウントとグループアカウントをサイトセットアップに追加する	はい / いいえ
	クライアントのセットアップでサービスを適する認証方法に設定し、サービスを再起動する	はい / いいえ
項目 5 : インストール手順 9		
	クエリビルダーを使用してデータをプレビューし、インストールが機能したことを確認する	はい / いいえ

3.2 手順

ここでは、Sharperlight のインストールと設定の主な手順について説明します。

3.2.1 手順 1 – 前提条件

Sharperlight 5.2 アプリケーションでは、Microsoft .NET Framework 4.6.1 以降がインストールされている必要があります。このバージョンの .NET Framework は、Microsoft Windows 7 Service Pack 1 および Windows Server 2008 R2 より前の Windows オペレーティングシステムにはインストールできません。したがって、この Sharperlight リリースは、Windows XP、Windows Vista、または Windows Server 2008 にはインストールできません。これらのオペレーティングシステムは、Sharperlight 4.1 を使用している必要があるためです。正しい .NET Framework がインストールされていないコンピューターにインストールしようとする、インストーラーは警告メッセージを返し、セットアップを終了します。



前提条件 - 4.6.1 以降の .NET FRAMEWORK

Sharperlight のインストールメディアは、32 ビットまたは 64 ビットの MSI インストーラファイルで構成されています。64 ビットインストーラーは 64 ビットオペレーティングシステム専用で、32 ビットインストーラーは、32 ビットオペレーティングシステム専用です。Sharperlight インストーラファイルの命名規則は、ビルド番号と 32bit/64bit 指定子です。

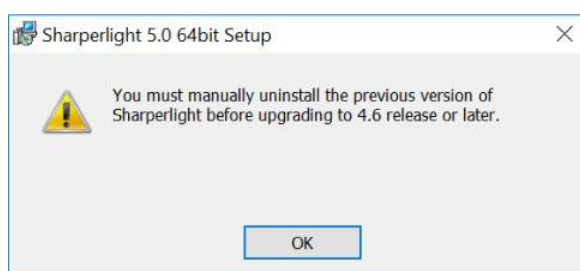
Name	Date modified	Type	Size
Sharperlight 5.2.127 32bit WINDOWS 32BIT ONLY.msi	6/12/2021 3:40 PM	Windows Installer ...	88,336 KB
Sharperlight 5.2.126 64bit.msi	6/12/2021 3:40 PM	Windows Installer ...	98,260 KB

インストールファイル

3.2.2 手順 2 – 手動でのアンインストール

Sharperlight 4.1 以前のリリースから移行する場合は、4.6 以降のリリースをインストールする前に、既存のインストールを手動でアンインストールする必要があります。データモデルとクライアントセットアップの構成設定はアンインストール後も保持され、Sharperlight はこれらの設定を再利用します。

新しいインストーラーでは、4.1 以前の既存のインストールをチェックし、存在する場合は、以前のバージョンをアンインストールする必要があることを説明するメッセージを返します。4.6 以降のすべてのリリースでは、以前のビルドが自動的にアンインストールされ、新しいソフトウェアがインストールされます。

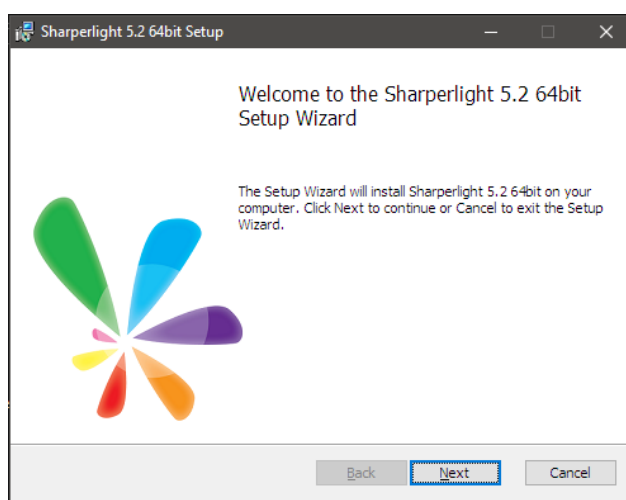


手動でのアンインストール

和訳 4.6 以降のリリースをインストールする前に、古いバージョンの Sharperlight を手動でアンインストールしなければいけません。

3.2.3 手順 3 - セットアップウィザード

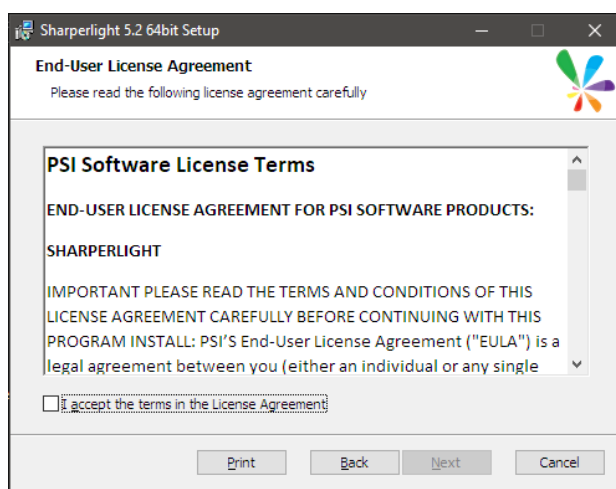
セットアップウィザードは、インストールの開始です。 Sharperlight 32 ビットまたは 64 ビット MSI インストーラーは、クライアントコンポーネントとサーバーコンポーネントの両方を包括しています。 これらのアプリケーションは、インストール先のコンピューターが Sharperlight サービスをホストする場合、またはコンピューターがクライアントアプリケーション（Excel アドインなど）を提供する場合にのみ必要です。 Web チャネル、ダッシュボード、および Web レポートへのアクセスには、リッチクライアントは必要ありません。



セットアップウィザード

3.2.4 手順 4 - ライセンス規約への同意

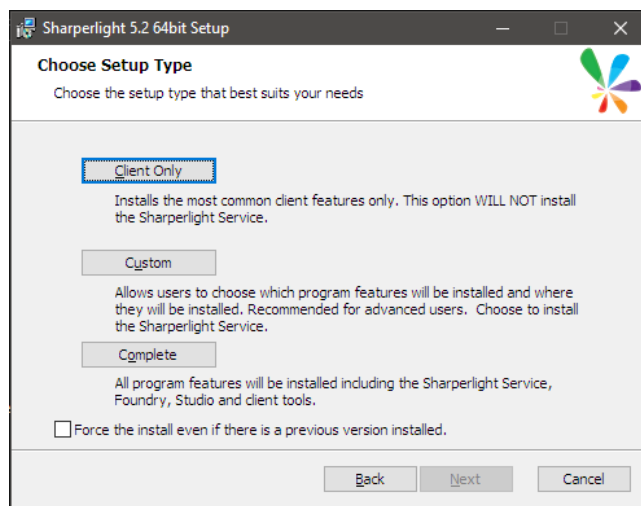
エンドユーザー使用許諾契約（EULA）は、ソフトウェアの作成者と、Sharperlight を使用している個人または法人との間の法的拘束力のある契約です。 利用規約を読んだ後、同意チェックボックスを有効にして、この管理契約に同意します。



ライセンス規約への同意

3.2.5 手順 5 – セットアップタイプ

インストールの次の段階は、セットアップタイプを選択することです。[Client Only]と[Complete]は、必要最小限の機能と完全な機能のセットが事前に準備されています。これらのいずれかを選択すると、セットアップがインストール段階に移動します。[Custom]を選択すると、機能を個々にまたはモジュールごとに選択できるように、別ウィンドウが表示されます。サーバーのインストールには[Complete]を使用し、Excel アドインは、[Client Only]のインストールに含まれますが、[Custom]を選択して除外することもできます。



セットアップタイプ

[セットアップタイプ] ウィンドウの下部にある「Force the install even if there is a previous version installed.」チェックボックスを使用すると、既存の Sharperlight インストールの上に強制的にインストールできます。このチェックボックスの主な目的は、Sharperlight 4.1 からそれ以降のリリースへのアップグレードを可能にすることです。その場合では、何らかの理由で既存のインストールを正常にアンインストールできませんでした。そこで「Force the install even if there is a previous version installed.」チェックボックスを有効にすることで、既存のファイルとレジストリキーを上書きし、その後のアップグレードが正常に行われるようにします。この設定を使用した場合でも、既にあるクライアントのセットアップの設定とデータモデルは変更されません。

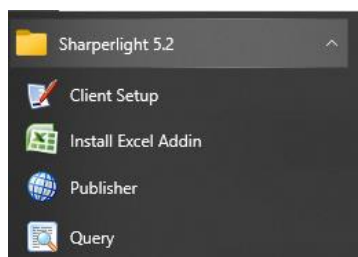
和訳

Force the install even if there is a previous version installed.

以前のバージョンがインストールされている場合でも、強制的にインストールをおこなう。

3.2.5.1 手順 5A – CLIENT ONLY

[Client Only] セットアップでは、クエリエンジンを操作するための中核コンポーネントがインストールされます。それには Microsoft Excel で動作するライブラリが含まれています。ただし、Sharperlight スタートメニューのプログラムショートカットは、クライアントセットアップ、パブリッシャー、クエリビルダー、および Excel アドインを再登録するためのユーティリティのみに制限されます。

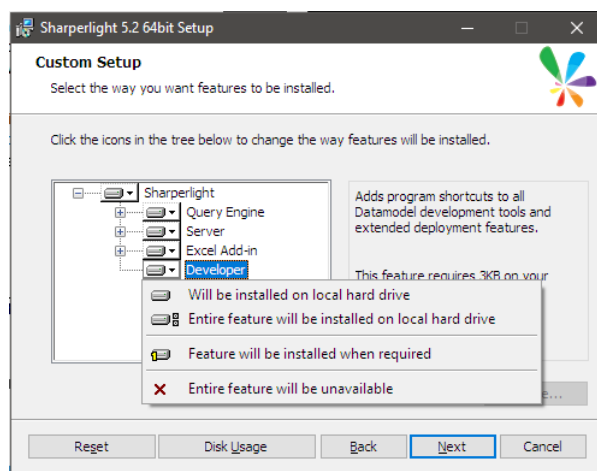


スタートメニュー - [CLIENT ONLY] インストール - ショートカット

3.2.5.2 手順 5B - CUSTOM

[Custom] セットアップには、クエリエンジン、サーバー、Excel アドイン、および開発モジュールの選択ツリーが表示されます。クエリエンジンとサーバーには、機能を拡張することで表示および選択できる追加機能があります。ツリーの各ノードには、ノードをマウスでクリックして開くことができる項目メニューがあります。

[Custom] インストールの既定の選択には、[Client Only] インストールのすべての機能が含まれますが、これは追加の選択で拡張できます。モジュール内のすべての機能は、「Entire feature Will be uninstalled on local hard drive」を使用してインストールできます。また、個々の機能は、「Will be uninstalled on local hard drive」を使用してインストールできます。



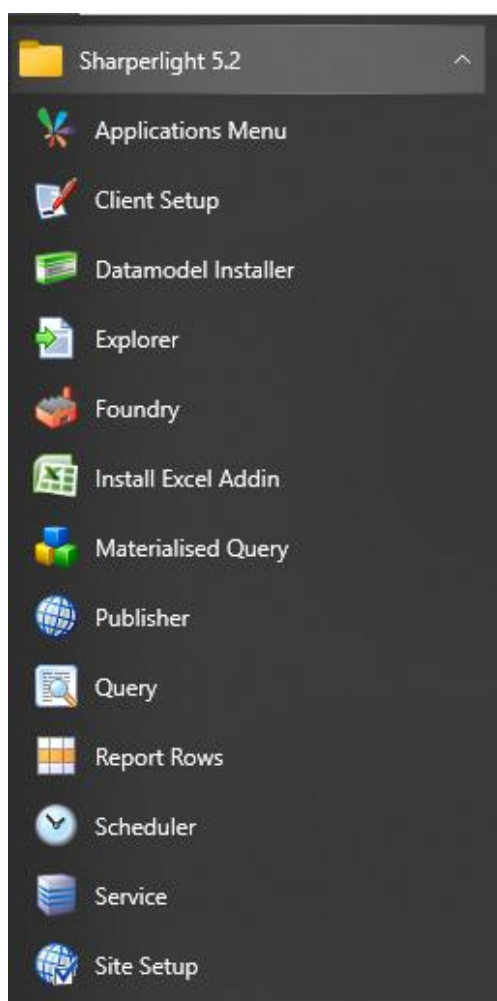
[CUSTOM] セットアップ

クエリエンジン、サーバー、および Excel アドインモジュールは、Sharperlight プログラムディレクトリにインストールされるファイルを決定します。中核クエリエンジンは必須であり、すべての機能は同じ md.Application 実行可能ファイルからアクセスできます。したがって、すべての機能を使用できますが、プログラムのショートカットが[スタート]メニュー-[プログラム]-[Sharperlight]メニューに追加されない場合があります。

和訳	Will be uninstalled on local hard drive ローカルハードドライブにインストールされます
	Entire feature Will be uninstalled on local hard drive 機能全体がローカルハードドライブにインストールされます

3.2.5.3 手順 5C – COMPLETE

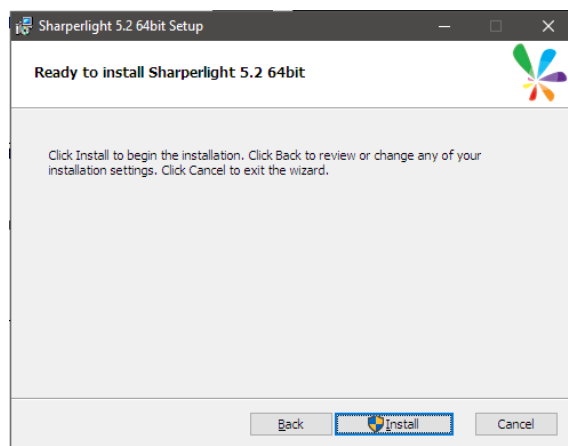
[Complete] セットアップには、中核クエリエンジン、サーバーコンポーネント、Microsoft Excel に統合するためのライブラリおよび開発ツールが含まれます。



スタートメニュー - [COMPLETE] インストール - ショートカット

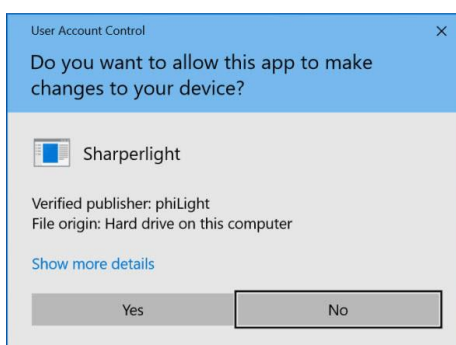
3.2.6 手順 6 - インストールと認証

インストール段階で、モジュールと機能が選択され、[インストール]ボタンをクリックするとインストールプロセスが開始されます。



インストール

インストールはマシンベースであり、すべてのユーザーが同じアプリケーションファイルとユーザー設定を共有します。この共有を許可するには、ユーザー特権を昇格させる必要があります。ソフトウェアのインストールを確認するためのユーザーアカウント制御（UAC）の承認ウィンドウが表示されます。現在のユーザーがソフトウェアをインストールする権限を持っていない場合は、別のログインとパスワードが要求されます。

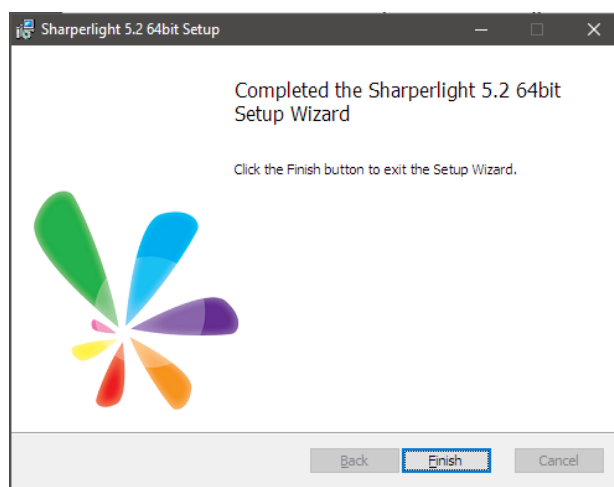


ユーザーアカウント制御（UAC）

対象コンピューターでユーザーアカウント制御がオフになっている場合、UAC チャレンジウィンドウは表示されません。“マシンごとのインストール範囲”は、スタートメニュープログラムのショートカットがコンピューター上のすべてのユーザーが利用できることを意味します。

3.2.7 手順 7 - セットアップ完了

インストールの最後に、セットアップウィザードはそれが完了したことを示します。 [完了]をクリックすると、ウィンドウが閉じます。



セットアップ完了

3.2.8 手順 8 - インストールの後

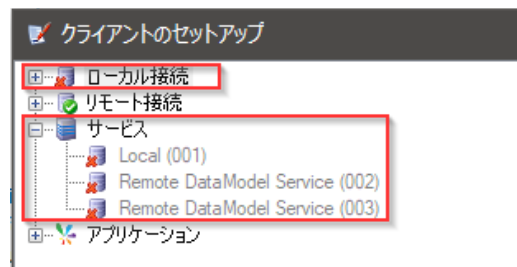
Sharperlight をアンインストールして再インストールまたはアップグレードしても、クライアントのセットアップの設定は削除されません。したがって、Sharperlight を実行している既存のコンピューターを、更新されたインストールで動作するように再構成する必要はありません。ただし、以前に Sharperlight がインストールされていない新しいクライアントコンピューターまたはサーバーへのインストールでは、クライアントの場合は手順 8a、サーバーの場合は手順 8b の手順に従う必要があります。

3.2.8.1 手順 8A - クライアント

[スタート] メニュー - [プログラム] - [Sharperlight] のショートカットを使用してクライアントのセットアップを開きます。クライアントコンピューターは、Sharperlight サーバーとして動作している集約型アプリケーションサーバー上のデータモデルサービスにアクセスします。これは、データソースに接続するための最も効率的で安全な方法です。このパターンを強化するために、[Client Only] のセットアップでは、クライアントのセットアップの[ローカル接続]と[サービス]の設定アイテムが非表示になります。

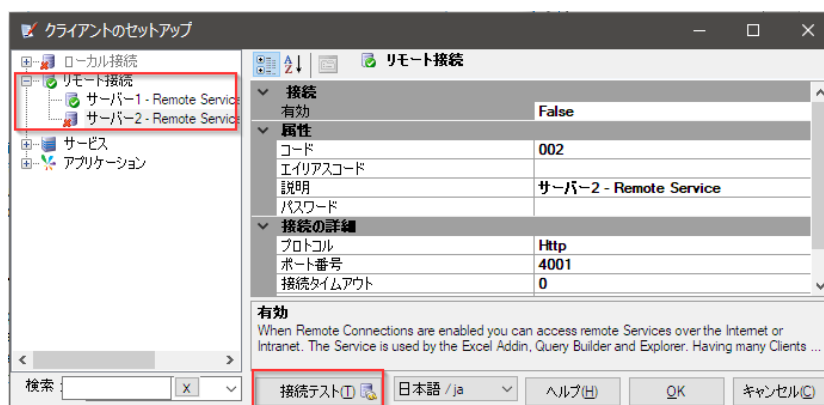
[Custom] セットアップまたは [Complete] セットアップを使用したクライアントインストールでは、ローカル接続を無効にする必要があります。データモデルは使用されない

め、クライアントにデータモデルを追加する必要はありません。 ローカル接続を無効にするには、ツリーの[ローカル接続]ブランチを右クリックして[無効]を選択します。これにより、接続アイコンが更新され、赤い十字が表示されます。 また、サービスエントリを構成する必要はなく、これらもすべて無効にする必要があります。



手順 8A - クライアント

クライアントコンピューターは、サーバーへのリモート接続のみを使用する必要があります。 Sharperlight をアンインストールして再インストールしたり、アップグレードしたりしても、接続設定は保持されます。 既存の接続の詳細を確認するには、有効な接続をクリックし、[接続テスト]ボタンを使用して設定を検証します。 新規インストールでは、最初に使用可能なリモート接続を選択し、接続の詳細をプロトコル、ポート番号、サーバー名、およびサービスコードで更新します。 次に、[接続テスト]ボタンを使用して、接続が成功したことを確認します。 接続は機能するが無効になっている場合、テスト後、接続を有効にするオプションが表示されます。 すべての構成変更を保存するには、[クライアントのセットアップ]ウィンドウを閉じる必要があります。



クライアントのセットアップ - リモート接続

クライアントのセットアップの[ローカル接続]と[サービス] の設定へのアクセスは、[Client Only] のセットアップでも引き続き可能です。 ツリー上にマウスの右クリックメニューがあり、[ローカル接続 - 構成の表示] オプションがあります。

3.2.8.2 手順 8B – サーバー

サーバーは、データソースに直接接続し、ローカルデータモデルを持ち、Sharperlight サービスをホストするコンピューターです。新しいクリーンなサーバー環境では、データモデルインストーラー、クライアントのセットアップ、手動でのサービス起動、Sharperlight サービス、およびサイトセットアップにアクセスする必要があります。サーバーソフトウェアのアップグレードには、Sharperlight サービスの停止、ソフトウェアのアップグレード、およびサービスの再起動が含まれる場合があります。

データモデルのインストーラー

データモデルのインストーラーは、データモデルを追加、削除、更新するためのユーティリティです。システムデータモデルは必須であり、インストーラーによって追加されます。追加のデータモデルはソフトウェア作成者によって提供され、再販業者とカスタムデータモデルを作成できます。必要に応じて各データモデルを追加、削除、または更新してから[再コンパイル]ボタンをクリックし、すべてのデータモデルをコンパイルします。[完了]ボタンを使用してウィンドウを閉じることができます。

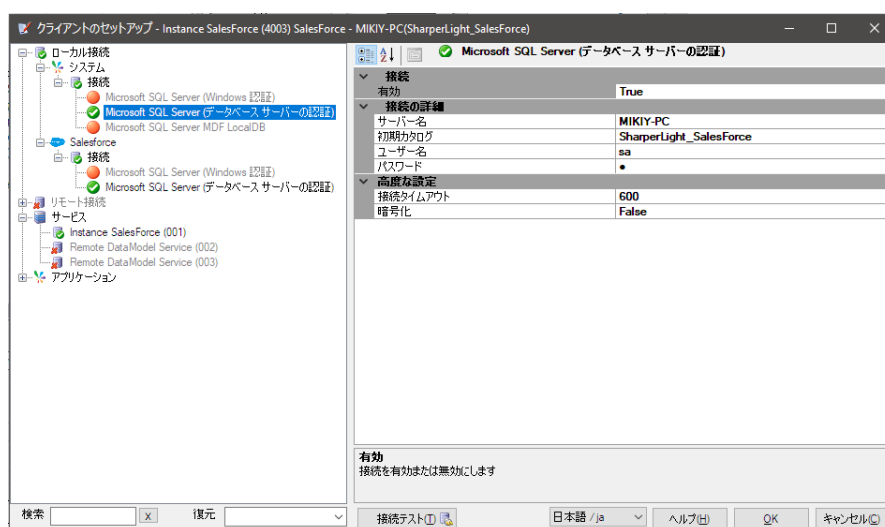


データモデルのインストーラー

クライアントのセットアップ

クライアントのセットアップを開くと、ローカル接続の下にすべてのローカルデータモデルが表示されます。システム接続は、ライセンス、ユーザー設定、および公開されたクエリが保存されているシステムデータベース用です。トピック「[準備-システムデータベース](#)」を読んでシステムデータベースを作成し、「[準備-SQLServer 認証](#)」を読んで Windows とデータベースサーバー認証の意味を理解してください。

多くのデータモデルはリレーショナルデータベースに接続し、接続の詳細はサーバー名、データベース（カタログ）、ユーザー名、パスワードで構成されます。これらの詳細を入力し、[テスト]ボタンを使用して接続が成功したことを確認します。現在使用されていないデータモデルは、データモデル名を右クリックして[無効]オプションを使用することで無効にできます。クライアントのセットアップの設定を保存するには、[OK]ボタンを使用します。



クライアントのセットアップ - ローカル接続とサービス

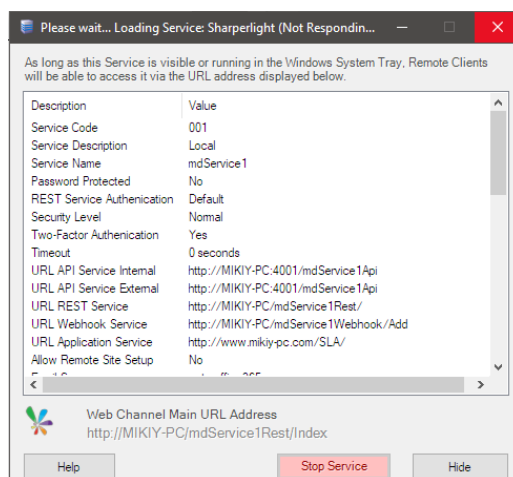
リモート接続は通常サーバーでは使用されないため、無効にする必要があります。サーバーでサービスを構成するには、最初のサービステンプレートを選択し、プロトコル、ポート番号、サービスコード、Web チャネルポート番号、および認証を確認します。既定の設定は機能するはずですが、組織のネットワークポリシーとの整合性を高め、Sharperlight をどのように保護するかを調整する必要がある場合があります。

既定のサービステンプレートは3つあり、一度に使用できるのは1つだけです。最初に有効にしたテンプレートが使用され、すべてが無効になっている場合は、一番上のテンプレートが使用されます。[OK] ボタンで [クライアントのセットアップ] ウィンドウを閉じて、サービスの構成変更を保存することを忘れないでください。

手動でのサービス起動

手動でのサービス起動はテストを目的としており、Windows サービスとしてサービスを実行している場合は利用できないランタイム情報のサービスウィンドウを提供します。手動

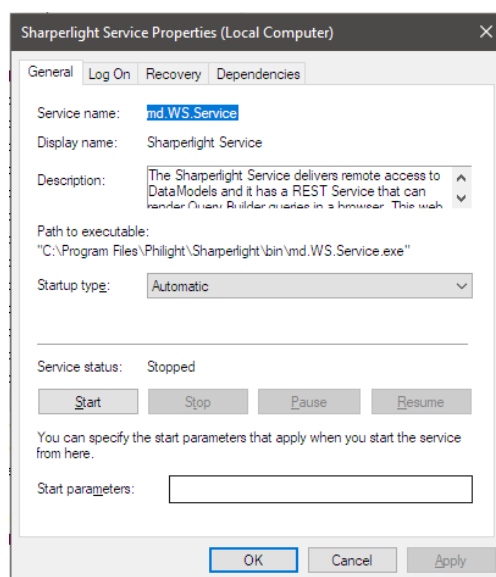
でのサービス起動は、[スタート]メニュー-[プログラム]-[Sharperlight]フォルダーの[サービス]ショートカットから実行できます。この機能を使用して、Web サーバーのアドレスを確認し、ファイアウォールがサービスの動作をブロックしていないかどうかを確認することをお勧めします。すべてが機能したら、Sharperlight サービスの構成に進みます。



手動でのサービス起動

Sharperlight サービス

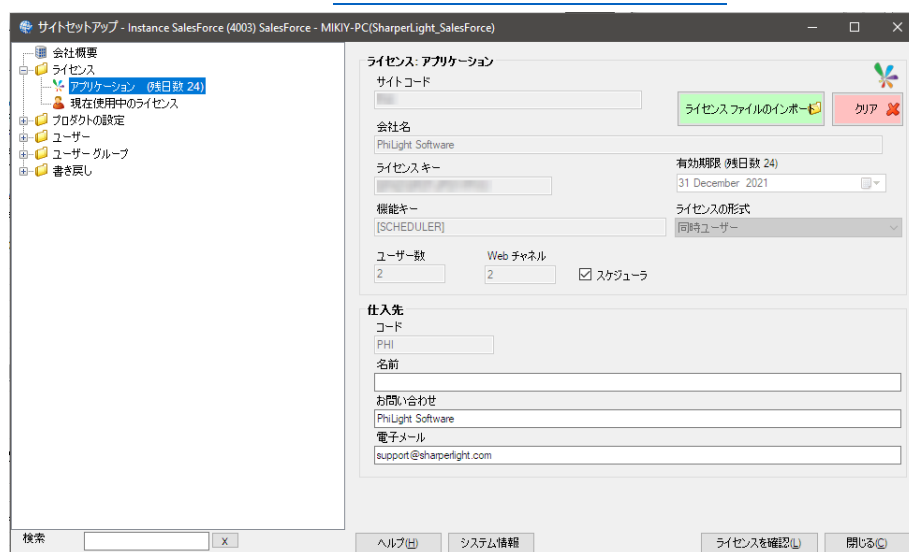
Sharperlight サービスは、インストーラーによって Windows サービスエントリとして作成されます。このサービスは、Sharperlight データサービスおよび Web サービスへのリモートアクセスを提供するための推奨される方法です。Sharperlight サービスでは、開始タイプを“自動”に設定する必要があるため、サーバーを再起動すると再起動します。ログオンアカウントの構成については、トピック「[準備-Sharperlight サービス](#)」をお読みください。



SHARPERLIGHT サービス

サイトセットアップ

サイトセットアップを開くには、ログインするユーザーが Sharperlight の管理者である必要があります。システムデータベースのクリーンインストールでは、既定の管理者はパスワードなしの admin という名前になります。サイトセットアップ内から、ライセンスファイルをロードし、グローバルプロパティを設定し、ユーザーとユーザーグループを定義し、アプリケーションのセキュリティを適用できます。ソフトウェアベンダーまたはリセラーがサイトセットアップのライセンスと構成に関与して、ライセンスコンプライアンスを確保し、Sharperlight 環境を適切に保護することをお勧めします。新しいライセンスを適用する手順を理解するには、トピック「[構成-ライセンスのインポート](#)」を参照してください。



サイトセットアップ - ライセンス

3.2.9 手順 9 - テスト

Sharperlight のインストールが成功したことを確認するには、[スタート]メニュー-[プログラム]-[Sharperlight]フォルダーのショートカットを使用してクエリビルダーを開きます。クリーンインストールでは、ログインウィンドウが表示されます。パスワードのないデフォルトの guest ユーザーを使用して、クエリビルダーを開きます。より安全な設定では、ログインするユーザーのアカウントがサイトセットアップに登録されている必要があります。

使用可能な製品の 1 つを使用して簡単なクエリを作成し、プレビューを使用して接続をテストし、データが返されることを確認します。クエリビルダーは、ライセンスのないインストールでも機能しますが、返されるデータの最初の 99 行に制限されます。インストー

ルのライセンスを取得するには、トピック「[構成-ライセンスのインポート](#)」を参照してください。

Part



4

4 構成

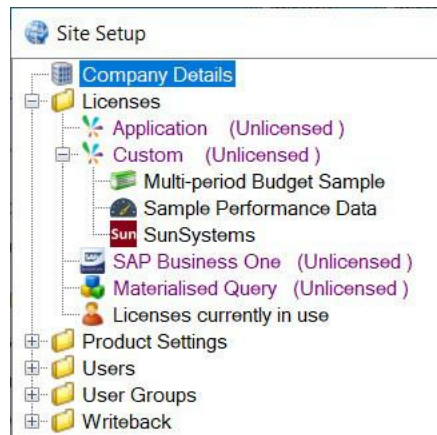
サイトセットアップとクライアントのセットアップは、Sharperlight の 2 つの主要な構成インターフェイスです。[クライアントのセットアップ]ウィンドウは、データモデルへの接続と Sharperlight サービスの構成を制御します。サイトセットアップは、ライセンス、ユーザーセキュリティを制御し、各データモデルの操作に影響を与える設定を維持します。

4.1 ライセンスのインポート

Sharperlight にはライセンスなしモードがあり、クエリエンジンはすべてのクエリで最初の 99 行のみを返します。このモードは、適切なライセンスがインポートされていないか、または既存のライセンスが期限切れになっている場合です。Sharperlight インストールのライセンスを取得するには、サイトセットアップでライセンスファイルをインポートする必要があります。Sharperlight のユーザーが利用できるカスタム、配布、およびアプリケーションライセンスがあり、ソフトウェアベンダーは、必要なライセンスをアドバイスし、新規および更新ライセンスの要求を支援できます。

ライセンスは、LIC 拡張子を持つ XML ドキュメントとして発行されます。ライセンスファイルをインポートするには、まずサイトセットアップを開きます。管理者として指定された Sharperlight ユーザーアカウントのみがサイトセットアップを開くことができます。すべてのシステムデータベースは、パスワードなしの admin というデフォルトの管理者アカウントで作成されます。したがって、グリーンフィールドの Sharperlight サイトでは、管理者ログインを使用してサイトセットアップを開きますが、既存の環境ではすでに管理者パスワードで保護されている可能性が高くなります。管理者パスワードを取得するか、別の管理者アカウントを利用することが、サイト設定を開く唯一の方法です。

サイトセットアップを開くと、ナビゲーションツリーの最初のフォルダはライセンス用です。Licenses フォルダーを展開すると、使用可能なすべてのライセンスフォームが表示されます。各ライセンスファイルはライセンスタイプに固有であり、該当するライセンスフォームにのみインポートできます。ライセンスファイル名には、多くの場合、ライセンスの一意の属性が含まれていますが、疑問がある場合は、ライセンスキーを提供したソフトウェアサプライヤーにお問い合わせください。



サイトセットアップ - ライセンスなし

サイトセットアップのすべてのライセンスフォームは類似しており、サイトが機能を利用していないため、一部のライセンスフォームがライセンスされていない場合があります。ライセンスフォームには2つのボタンがあり、[クリア]ボタンは既存のライセンス情報を消去し、[ライセンスファイルのインポート]ボタンはインポートするライセンスファイルを選択するためのファイルナビゲーションウィンドウを開きます。新しいライセンスをインポートすると、既存の設定が完全に消去されます。新しいライセンスをリモート接続とブラウザ接続に適用するには、Sharperlight サービスを再起動する必要があります。

Part

5 トラブル対応

5.1 EXCEL アドインの再登録

Sharperlight Excel アドインは Microsoft Excel に読み込まれ、クエリビルダーを Excel で使用できるようにしてクエリ数式を作成します。このアドインは Microsoft Excel に登録する必要があり、ロードすると Sharperlight XL メニューが表示されます。Sharperlight のインストール中に Excel アドインの登録が試行されますが、Excel が不安定になると、アドインがアンロードされる場合があります。

Sharperlight XL アドインが Excel からドロップアウトした場合は、Program Files¥Philip¥Sharperlight¥bin または ProgramFiles(x86)¥Philipt¥Sharperlight¥bin にある md.InstallExcelAddin.exe ファイルをそれぞれ 64 ビットおよび 32 ビットに応じて実行します。実行可能ファイルを実行する前に必ず Microsoft Excel を閉じてから、Excel を再度開いて、SharperlightXL メニューが表示されていることを確認してください。

5.2 SHARPERLIGHT サービスの時間切れ

一部の Windows サーバーでは、Sharperlight サービスの開始に失敗する可能性があり、Windows システムイベントログに「Sharperlight サービスの接続を待機中にタイムアウト（30000 ミリ秒）に達しました」というメッセージが返されます。この 30 秒のタイムアウトは、サービスを実行するのに十分な時間であるはずですが、残念ながら、実行を遅らせている要素を特定することは非常に困難です。この問題を解決する最も簡単な方法はタイムアウトを延長することですが、これにはレジストリキーの更新とサーバーの再起動が含まれます。すべてのサービスの既定のタイムアウト値を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. レジストリエディタを使用して、レジストリサブキーを選択します
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SYSTEM ¥ CurrentControlSet ¥ Control
2. 右側のペインで ServicesPipeTimeout エントリを見つけ、このエントリを右クリックして、[変更]を選択します。
3. [Decimal]を選択し、新しいタイムアウト値をミリ秒単位で入力して（60000 は 60 秒、120000 は 120 秒）、[OK]を選択します。
4. サーバーを再起動すると、この変更が有効になります。